

食・環境・地域社会に深く関わる
農林水産業をしっかりと支えていくこと。
それが農林中央金庫の使命にほかなりません。



経営管理委員会会長

萬歳 章

代表理事 理事長

河野 良雄

私たちの使命 農林水産業をしっかりと支えていきます

私たち農林中央金庫の存在意義は、「農林水産業者の協同組織を基盤とする金融機関として、JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)など会員のみなさまのために金融の円滑を図ることにより、農林水産業の発展に寄与し、もって国民経済の発展に資すること」。

農林中央金庫法第一条にあるこの社会的役割は、私たち役員員の一人ひとりが、どのような分野で仕事をしていても忘れることのない、唯一無二の使命です。私たちはその使命を果たしていくため、農林水産業や関連する産業分野に対する良質な金融サービスの提供、地域社会に根差したJAバンクやJFマリンバンクの金融事業のサポート、およびJForestの取り組む森林再生事業等へのサポートに取り組んでいます。また、会員のみなさまへ収益を還元することを通じ、農林水産業の発展に貢献するという明確な目的のもと、お預かりした資金を原資に国内外で多様な投融資を行っています。

引き続き東日本大震災からの復興に 寄り添ってまいります

私たちは、東日本大震災の復興に取り組まれている方々のご尽力に敬意を表し、役員員一丸となって復興支援に取り組んでまいりました。

平成23年度に創設した「復興支援プログラム」(期間4年、支援額300億円)に基づき、被災された農林水産業者への支援や、被災地域の生活再建に向けた支援、被災された会員への事業支援・経営支援などに取り組んできました。また、農林水産業者への金融機能の強化や農工商連携など、各分野において着実に取り組みを進めております。しかしながら、各地域の復興の歩みは一律ではなく、必要とされる支援のかたちもさまざまです。

当金庫は「復興支援プログラム」の期間を延長し、現場の声を大切に、いつまでも寄り添うという姿勢で、復興ステージに則した支援の取り組みを継続してまいります。

農林水産業と食と地域の暮らしを支える リーディングバンクを目指して

今、農林水産業の成長産業化と地域の活性化が国の政策に掲げられ、協同組合に対しても新しい事業のあり方が求められています。当金庫が、JA、JF、JForestグループとともに果たすべき役割、社会からの期待も、かつてなく大きくなっていると認識しております。

当金庫は、一昨年、創立90周年を迎え、来るべき創立100周年に向け、「農林水産業と食と地域の暮らしを支えるリーディングバンク」という目標を掲げました。震災復興への支援、農林水産業の担い手への支援、事業力強化への支援、地域活性化への支援に率先して取り組んでいます。これらの取り組みをさらに深めるため、平成26年度には「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を創設しました。

農林水産業のフィールドで 「現場の声に答えるCSR活動」を

当金庫の出資者である全国の協同組合組織は、「相互扶助」の精神のもと、一貫して日本の農林水産業の発展に貢献してきました。それは、農林漁業者を経済的に支援することはもちろん、ふるさとの風景を守り、地域の暮らしを守ることもありました。

現在、多くの企業が事業活動とCSR活動の両立を目指していますが、協同組合組織の事業や活動は、本来、経済のみならず、環境や地域社会の持続的発展に貢献しているということに、私たちは誇りを持っています。

当金庫のCSR活動は、会員とともに、「現場の声」に答えながら、私たちの原点である農林水産業のフィールドで、業務全般を通じてその振興や地域社会・環境への貢献のために展開してまいります。

会員との大切な絆 それが私たちのCSR活動の源泉

当金庫は、平成17年3月に「森林再生基金(FRONT80)」を設定し、民有林の再生を目的とした活動への助成を実施してきました。平成26年度には、その後継基金として「農中森力基金^{もりぢから}」を設立しています。また、平成19年度からは、JAバンクグループが一体となって実施する「JAバンクアグリサポート事業」を立ち上げ、日本の農業・農村に対して支援を開始しました。

さらに、農業経営者育成の取組みとして、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンおよび同法人のコア事業である日本農業経営大学校の運営に、全面的に協力しています。平成27年3月には同校の第一期生19名が卒業し、全員が就農しました。

このほか、国連が定めた国際協同組合年(IYC)における活動を引き継いだIYC記念協同組合全国協議会に参画し、協同組合の価値や役割等の周知、農林水産業以外の協同組合組織との連携に取り組んでいます。

引き続き、当金庫は着実に自らの使命を果たしてまいりますとともに、CSR活動につきましても、農林水産業の現場にある会員との「絆」を源泉に、みなさまへの貢献のあり方を考え、社会的な存在意義を確認しながら、協同組合組織のグループ全体で相互に連携し、協調して取り組んでまいります。

8回目の発行となります本報告書では、「現場の声」をご紹介することにより、私たちのさまざまな取組みを分かりやすくご説明するよう努めたつもりです。忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。